

# 第105回全国高校野球選手権青森大会

## 工大二 接戦制す

工大二が雪辱を期す八学野西を退けた。春の青森県大会でも逆転勝利を取めた相手。序盤は劣勢でも、選手たちは「絶対にはたひつくり返せる」と信じていた。中盤以降は投打の調子があがり、2年連続の8強入り。三上彦監督は「最後までよく戦ってくれた」とナインを褒めちぎった。

2点を追う五回。相手2番手の制球が乱れ、押し出して1点を返した。さらに、代打佐々木選手の内野ゴロの間に1人が生還、試合を振り出しに戻した。

六回は2死から。満塁機に蹴揚奏翔が冷静に四球を選び、逆転に成功した。

なおも続く好機。「打って流れを持つてくる」。強い気持ちで打

### 中盤に得点重ねる

席に立ったのは、1年の高山冬跳。緩い変化球にうまく合わせるなど、左前に落ちる貴重な5強打者となった。「試合前の練習で調子が良かったのでスタメンにした。よくやってくれた」と話す二上監督の起用にも応えた。

援護をもらった主戦で主将の速応健聖は一段と気合が入り、六回に自己最速を2.7更新する142km/hの直球をマーク。制球を乱す場面もあったが、気迫のこもった投球で最後まで投げ切った。

次戦は今春の県大会で大敗した第1シードの工大一。兄弟校対決となる大一番だ。「主力で戦って勝ちたい」。チームの大黒柱は静かに闘志を燃やした。

（千葉達也）

〇：春の青森県大会で敗れた工大二と再び激突した八学野西はリベンジならず。三回に一挙4点を奪って一時先行するも、中盤に失点を重ねて追う展開に。八回に1点を返して2点差まで迫ったが、最後まで球威が衰えない相手主戦の前に力尽きた。

三回に同点に追い付き、なおも2死三塁。吹越清弥が同じ相手には絶対にはたひつくり返せぬと左翼線に逆転の通時一塁打を放った。

さらに工藤友喜の中前打で2人が生還し、試合の主導権を握ったかに見えた。

だが、「守備で負けた」と工藤。五、六回は四死球を連発し

### 野西 リベンジならず 3回に一挙4点、一時先行



て失点を食い止められず、相手 続でも強の壁に阻まれている八学野西。2年生の吹越は「もっとヘルアップして次こそは勝戦力がそらいながら、3年連続で巻き返しを誓った。」

3回戦 工大一 八学野西 3回 八学 2死三塁 一時逆転となる通時一塁打ち、ベース上カッポスする吹越